

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1 【いきる】 2 【かかわる】	⑤ 【やり抜く強さ】 救済活動などに従事した人々の働きと苦労を通して、どんな状況においてもやり抜く強さについて考える。 ⑪ 【ボランティア】 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。 ⑭ 【復旧・復興へのあゆみ】 震災津波で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きとしたまちづくりにかかわる。	総合的学習 の時間

**【題材】 未来をつくる絆 ～私たちの震災復興～**

**【対象】** 5学年 38名 6学年 61名

**【実践の概要・詳細】**

**(1) 緑のバトン運動**

本校では、5年生が1年間滝沢市で桜の苗木を育て、翌年6年生になると沿岸に植樹をする活動「緑のバトン運動」を行っている。そして、苗木を育て始めた5年生は、翌年植樹する市町村の見学学習をする。

本年度4月、6年生は、山田町船越小学校に桜15本の苗を校庭斜面18mの位置に植樹。後世の人に津波がここまで来たと伝えるメッセージを込めて丁寧に植えた。その後、船越小でもお世話くださり、桜は順調に大きくなっているようだ。5年生は、今年も桜の育苗を開始。来年度、釜石市唐丹地区に植樹することに決定。



サクラの苗の植え替え作業



船越小で桜を植樹する6年生

**(2) 植樹予定地の見学学習**

**① 釜石市の現状を知る。**

土地を高くするための工事車両が列をなして走る様子、建物や人影がほとんどなく、重機ばかりが動く様子を見ることができた。

**② 「宝来館」女将 岩崎昭子さんの話**

当日の防災センターでの悲しい出来事や地区が孤立した際の大人や子どもたちの行動について生の声を聞く。自分たちが生かされている意味、今の子ども達が何を学び、どう生きてほしいかなど、未来を担う子ども達へ熱いメッセージをいただいた。



熱く語る「宝来館」の女将さん

**③ キッチンカー体験**

震災後、大活躍した地元の「キッチンカー」をよび、1人前500円のカレーライスをランチとしていただいた。



**④ 釜石駅前市場「サンフィッシュ釜石」見学・買い物 キッチンカー**

復興の一助になればと思い買い物をする。また、自分たちが海産物を地域のフリーマーケットで販売するために、商品の陳列や値札を観察したり商品についての知識やセールストークの仕方等について店の方にインタビューをしたりして学んだ。



買い物をしながらインタビュー

**(3) 滝沢駅前「がやがや市」で釜石の海産物販売 キッズマートHIGASHI**

釜石から仕入れた海産物を5年生が販売。看板や値札も工夫して作った。「これは味噌汁においしいですよ。」「お父さんのお酒のおつまみにいかがですか。」「ウニイカは校長先生のいちおしですよ！」と宣伝の仕方を釜石で教わっただけあり商売上手の5年生。予定時間内に16種類250品の品物を全て売ることができた。利益は、復興支援のために役立つ。



いきいきと活動するキッズマートメンバー

【授業の展開】

「未来をつくる絆～私たちの震災復興～」学習活動

- 1 テーマについて理解し、活動の見直しをもとう。
- 2 東日本大震災について学ぼう。
  - (1) 地震・津波の規模について
  - (2) 震災直後の被害の状況について
  - (3) 被災地の今（復興の状況）について
- 3 自分の課題を決めて調べてみよう。
  - (1) 課題を考えよう。
  - (2) 課題を解決しよう。
  - (3) わかったことについて交流しよう。
- 4 実際に見たり聞いたりしよう。（釜石市鶴住居）
  - (1) 震災当日の状況について…校長先生より
  - (2) 今後の被災地の復興と夢・希望  
「宝来館」女将 岩崎昭子さんのお話
  - (3) 釜石の海産物を購入…がやがや市での販売&PR活動につなげる。
- 5 釜石市を支援する活動の1つを体験しよう。
  - (1) 釜石市の歴史や特産物について知ろう。
  - (2) 販売&PRのしかたについて考えよう。
  - (3) ポップ・値札作りをしよう。（描き方を昆先生から学ぶ）
  - (4) がやがや市で釜石の海産物を販売&PR活動をしよう。
- 6 これからの復興について考えよう。
  - (1) 活動をふり返り、どんな岩手県にしたいか想像しよう。
  - (2) 今後の復興のために何ができるか考えよう。
  - (3) 「未来をつくる絆」をテーマに、自分たちのこれからの生き方について意見交換会をしよう。

調べた課題
・仮説住宅のくらし（8人）
・復興ボランティア（4人）
・震災後の観光の状況（4人）
・原発問題（2人）
・未来の防災（3人）
・命をかけて人々を救った人（10人）
・被災地の人々の願い希望（4人）
・過去に岩手をおそった津波（2人）



児童が作った看板と値札

釜石の姿  
見学後の感想から

釜石の姿  
ぼくは、総合的な学習で、「未  
来をつくる絆」というテーマの震災復  
興の人の人々の願いを知るため、  
釜石の見学に行きました。  
まず、宝来館の女将 岩崎さ  
まの話を聞きました。絆ハウスへ行  
きまして、岩崎さんの「宮澤賢  
治が言った『みんなの幸せはな  
い』が、助け合える岩手  
県人が日本人のイメージだ。」  
と聞いていました。  
そして、「どんなにつらくて  
も、協力し生きようになれるか  
も、釜石の人のようになれるか  
ききたみなさんにも勉強なさい  
ら、たまたまにはやらないは  
生きたからにはやらないは  
けなさい。」とも聞いていました。  
インタビューをおこなった釜石に  
行くまじゅうお店のいろいろな物  
の町釜石の商品のいいところを  
たたくさん教えるのいいところ  
だ。例えば、サケのいいところは  
その後、疲れた回復にもいいので  
す。

釜石の人は、この体験を通して、  
釜石の回復を願っています。  
釜石の回復を願っています。  
釜石の回復を願っています。

まとめ

- ① 桜植樹地見学の前に、一人一人課題を立て、自分なりに調べ学習をしたことで、見学の目的が明らかになり意欲的な見学学習ができた。
- ② 宝来館の女将 岩崎さんの話「生かされた私たちには、やらなければならない使命がある。まず、君たちはしっかり勉強しなさい。」は、子ども達の心に強く響いた。亡くなっていった方々の分もしっかり生きていかなければならない。内陸にいる自分たちにもできることは何だろうと考え、『毎日の勉強を一生懸命する』『がやがや市で支援のための販売活動に参加し、釜石の海産物のよさを知ってもらう』『毎月の絆募金やがやがや市での募金活動では大きな声で呼びかける』等、一人一人考えたことを実践する姿があった。
- ③ 10月25日の学習発表会で、5年生は津波から人々を救った浜口儀兵衛の「稲むらの火」を劇で発表。「にげろ！」と叫ぶ声もリアルで、涙を流しながら迫真の演技をする姿があった。この劇は観客に多くの感動を与えた。釜石市見学では、人々のために働いた『すごい人』が多くいたことを改めて知り、それを内陸の人にも伝えられたことがうれしかったと5年生の子ども達は感想をもった。
- ④ 子ども達は、「緑のボタン運動」に関わることや釜石市見学で、心の大きな成長をみる事ができた。

